

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171400205		
法人名	有限会社ケアサポート・KSN		
事業所名	グループホームおうち		
所在地	佐賀県唐津市相知町平山上乙1196-1		
自己評価作成日	令和3年6月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にとって、安心出来て家庭的な生活の場。家族様にとっても安心して家族様を私達に任せて貰える場。職員にとっても働きやすく明るい職場。山間ののどかな自然環境、季節の変わり目等四季を目で見て感じる事が出来る。ゆっくりとした時間等癒しの環境。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは山間の静かで自然豊かな所にある。長く勤務している職員が多く、ゆったりと流れる時間の中で入居者が安心して年を重ねる姿がある。また、地域との交流はコロナ禍でありながら良好に続いており、ご近所からの野菜の差し入れや散歩時の交流等、心温まるエピソードを多く聴くことができた。看取りに対しても「最期まで人のぬくもりを感じて送りたい」と管理者、職員ともに共通した姿勢で支援されている。設立当初から入居者・地域と共に、寄り添いあいながら支援に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、理念と基本方針を唱和し理念を共有し実践につなげられる様に努めている。	新たに3つの理念を加え、毎朝の申し送り時に理念を唱和を行い、理解と再確認が出来ている。また、会議ごとに理念に沿った行動ができていないか振り返る場を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度定期的に地域の高齢者様をお呼びして交流会を行っている。	コロナ禍のため地区行事が中止され、交流の機会は減っている。その中でも近隣者とは散歩の時の挨拶、採れた野菜のお裾分け等、日常的なつきあいを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について講演会に行ったり、視察研修も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの利用者様の状況報告を行いながら地域の方々の情報収集をしたり、意見交換会をしている。メンバーが固定化する中でそのメンバーの知人や友人に声を掛けて頂く等工夫検討している。	コロナ禍のため集まったの参加の機会は少なくなったが、定期開催行い、ホームの取り組み状況を報告できている。会議の意見を活かし実際に改善実施している。	コロナ禍で集まって会議することが難しい場合、書面での開催をする際は、参加者から意見を聴取するような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	唐津グループホーム連絡会を立ち上げ、唐津市内のグループホームとの連携や行政との連携も行っている。宅老所等の関連施設とも協力関係が構築している。	グループホーム連絡会を通じ、市担当者とは日頃から連携が取れている。また、市の認知症勉強会に参加し事業所としての意見を伝える等、協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	処遇会議や申し送り等で職員に拘束しない事を伝えている。利用者様の安全確保のために代替え等考えたり、どうしても抑制が必要な場合は、最小限に抑制を行い早急に抑制が解除出来る様に検討、実践を行っている。	現在、身体拘束は行っていない。委員会を立ち上げマニュアルを作成、職員がいつでも手に取れる場所に置いている。言葉遣いは気づいたときに注意し、会議で職員全体と共有、身体拘束を行う事の弊害について理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加したり自施設内勉強会でも取り上げ勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に行く機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	機会があれば、契約前にお話し、契約時には十分な説明を行い、質問や疑問に思われる事等を伺い不安感を与えない様に務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時や処遇会議時や、地域の方々が来られる交流会の時等に意見等ないか声をかけさせて貰っている。	面会時に直接、本人や家族から意見を聞く機会を作っている。家族だよりに入居者ごとにコメントを添えたり、SNSでのやりとりで関係性を築き、意見しやすい工夫をしている。意見は運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日頃の業務の中で意見を聞く機会を設けてみたり、個別に相談があったり出来るだけ運営に反映できる様に努めている。	毎月の会議の場や個別に提案や意見を聞く場を作り運営に反映している。管理者も職員の得意な面を聞き取るようにし、支援の改善や運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、個人面談を行い就業意欲や研修参加への意欲その他勤務状況について話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を月に1回、唐津グループホーム連絡会による研修会への参加や実践者研修にも参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、唐津市内のグループホーム仲間が集まる研修会や意見交換会の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っている事や不安に思っている事等本人様とゆっくりお話して聞き出したりして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っている事をお聞きし要望に応じる事が出来る様に、利用する事が決まった時や家族様が面会に来られる度に意見や要望がないか等話しやすい環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の現状の把握に努める為に本人様の状態観察と共に家族様からの聞き取りや医療機関からの情報提供を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護していると言う考えよりも、お世話させて頂いていますと言う気持ちを持ちながら家庭的な関係が保てるような明るい楽しい雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人様が不安がっていると感じさせない様に、職員は代弁者としてお互いの思いを伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他科受診や散歩や買い物にお連れした時利用者様の馴染みのある場所へお連れしたりする。友人の来訪時には訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	コロナ禍では特に、面会の場所等を工夫し面会できるように支援している。本人がこれまで大切にしてきた関係や場所を聞き取り、できる範囲で関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時に合わせて座る場所を変えたり、スタッフが間に入ってその場の雰囲気を変える様に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の家族に偶然にお会いした際には、話せる時間があるようならばその後の生活を聞かせて頂いたり、思い出話をしたりしている。いつでも相談事でも遊びでも来て頂ける様にお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、本人様の意向や思いを引き出しケアに努めている。自らの意向が困難な場合には、表情や言動から把握を行い出来るだけ意向に添える様に支援している。また本人様の家族様からもお話を聞いている。	日々の支援の中で、入居者に合わせたコミュニケーション方法で、思いや意向を引き出すように努めている。聞き取った事柄は、記録や終礼の際に職員で共有し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃から利用者様の生活歴や馴染みの暮らし方等把握する為に家族様や本人様との関わりの中で情報収集しサービスに生かす様に指導している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からお一人お一人のADLやお顔の表情や体調の変化等様観察するように務めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、職員からの意見を聞いたり、家族様からの意見を聞かせて頂いたりして介護計画を作成している。必要な場合には担当者会議を行い計画を見直し現場に即したプランを作成する様にしている。	本人や家族の意向とカンファレンスでの職員の意見を踏まえて、現状に即した介護計画を作成している。家族の面会時等を利用し支援の見直しを行い、職員間でも会議の際に情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の他に、個別ケアチェック、個別支援計画経過記録、ケアプラン等職員がいつでも見る事が出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況や写真を添付する等の報告をする。他に変化があれば電話(ライン)やお便りで連絡を行い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑や緑豊かな地域資源を利用し、近くまで散歩に出か自然を満喫している。その中で農作業や畑仕事をしているご近所様と会話されたり、安全でゆっくりとした暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携も出来ており、契約時にかかりつけ医から協力病院への変更は適切にできている。専門医の受診が必要な利用者様には、その都度専門医の受診が出来る様に家族様が望まれる医療施設に紹介して貰っている。	ホームが既に連携している協力医を選択する家族が多い。専門医の受診は家族と協力し支援を行っている。受診の際にはホームでの状態を事前に記し、医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者様の状態把握をし、適切に医療機関への調整が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院が関連機関である為適切な連携が図れている。入退院時に関しても利用者様や家族様が不安にならない様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態を家族様にお伝えする際に重度化する状態であればその旨適切に説明し、今後の経過方針等について話し合い家族様が不安にならない様に取り組んでいる。契約時に重度化した場合や看取りについて説明を行い意向の把握を行っている。終末期の方針を家族様を含め医師、職員全体で共有しチームで支援出来る様に取り組んでいる。	入居者の状態に合わせ、終末期への気持ちの確認を本人及び家族と行っている。ホームでの看取りに取り組んでおり協力医との連携もスムーズになされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行ったり、研修会にも参加している。日頃から実践力を見に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を行い地域の消防団の方に来て頂き指導して貰っている。近隣住民には、消火訓練を行ってもらい日頃から協力体制が築かれている。非常時の発電機や備蓄も確保している。	年2回の火災避難訓練を含め、定期的に火災・救急・通報訓練を行っている。地域の近隣者、消防団とも共同で、入居者との屋外避難も含め行っている。災害マニュアルの作成、災害時の備蓄も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修や職業倫理についての研修会を行い利用者様の尊厳とプライバシー保護に務めている。排泄時や入浴時には、声掛けやプライバシーに配慮している。	接遇、職業倫理についての年間計画を作成し、職員全体の意識が向上するよう努めている。排泄時の声かけは特に尊厳が保たれるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたい？どうして欲しい？等本人様に声掛けし自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めて対応しているが、利用者様個人個人のペースを大切に臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その季節に合った服装、本人様の好きなお色の服など考慮している。散髪や髭剃りなど定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とともに庭先の畑を眺めては野菜の成長をみて収穫を楽しみにされている。ふきやつくしなどののすじやはかまをとったりして下さる。外食等テイクアウトしたりして提供している。	食事が楽しみなものになるよう、野菜植えや収穫を入居者で行っている。食の好みを聴きとり、好みに合った調理、工夫をしている。しかし、重度化した場合の食事を楽しむ支援については、十分とは言えない。	重度化した際も五感で食事を楽しむ取り組み等に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて調理出来たかどうか分かる様に食事献立ノートに食材を記入し職員全員が分かる様にしている。利用者様の食事摂取量をチェックし把握できるようにしている。栄養や水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアが出来たかチェックしている。利用者様の状況に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し個々に合わせたオムツやパットを使用し出来る限りトイレでの排泄を支援し自立に向けた支援をしている。	排泄状態を把握し、自立に向けた支援を継続しているが、入居者が重度化しおむつ交換が多くなった今は、尊厳を保つ声かけを一番に心がけ取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や水分摂取に努めながら排便チェックを行い、便秘が続くようならば緩下剤を処方して頂く様にして利用者様の苦痛を減らすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回としているが、必要に応じてシャワー浴や清拭や手浴足浴等を行っている。	入浴はくつろぎの時間と考え、お湯につかりゆっくりと過ごせる支援を心がけている。職員は2人体制で肌の保湿や手浴、足浴での拘縮予防にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合った休憩時間をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に1回勉強会にて薬の内容や効果や変更等話し合ったり、服薬内容(文献)を理解出来る様に分かりやすく記載し職員全員理解出来る様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等の軽作業を手伝って下さる方には声かけし役割の支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援出来る様に心がけているが、高齢化が進みADL及び理解度も低下され外出する事が負担となる方も多。その中で日常的な散歩や外気浴をしている。お花見やおくんち等季節に応じた外出支援も行っている。	入居者の重度化やコロナ感染予防の為、遠出は出来ていないが、毎朝の散歩が近隣者と入居者が挨拶を交わすよい機会となっている。季節ごとにホーム近くの花見行事は継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在利用者様でお金を使ったりされる方はいない。買い物に行く機会があれば支払ってもらおうなど対応を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたりされる方は今現在いらっしやらない。手紙が届いた時には、読んで差し上げたり本人様に手渡す様にしている。電話がかかってくれば取り次ぎこちらから必要に応じて近況報告など電話ラインなどでしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルや床の間、玄関等に季節の花を活けて飾ったり、共有の空間は、もちろん窓から四季折々の風景を見る事が出来る。	ホームの大きな窓には外の風景が映り季節を感じる事ができる。外の野花を摘みテーブルに飾ることもある。廊下は色分けした案内テープがあり、理解しやすい工夫をしている。温度、湿度は適切に管理され、感染予防の換気も小まめに実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中にも、ソファがあったり、和室があったりして一人になれたり、お友達や気の合う方との関わりも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には棚があり使い慣れたものや写真等馴染みの物を持参してもらい居心地の良さを作り出している。	持ち込み制限はなく、馴染みの物をホームでも使い続けることができる。寝具等は入居者の動作に合わせ安全、快適に過ごせるよう配置している。身体状態に合わせ居室を変更できるように調整、工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごせる様にキッチンからもリビングと和室の見守りが出来る作りになっている。和室に座って洗濯物たたみ等利用者様の動きが分かる様に工夫されている。		